



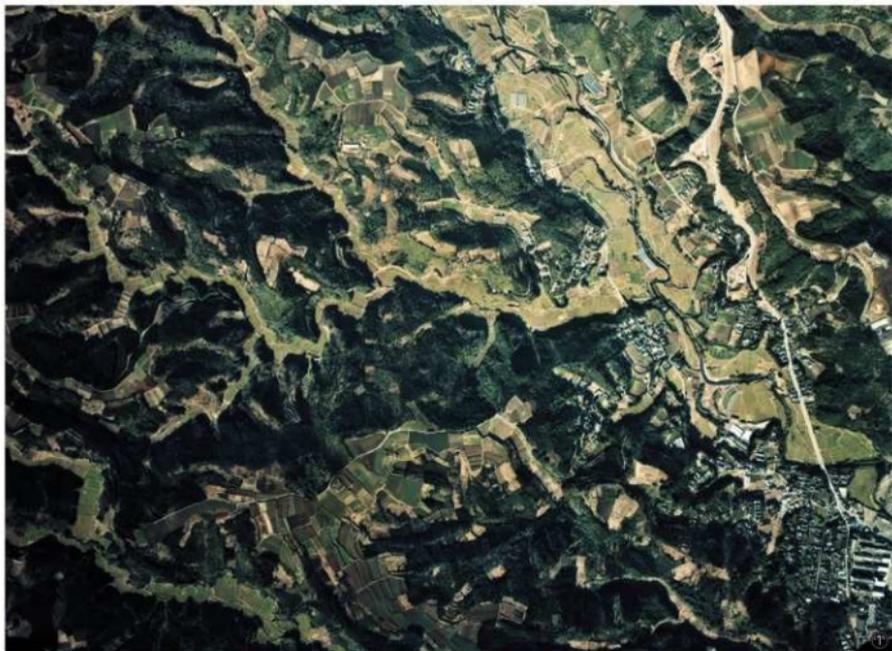
古代出土遺物 1



古代出土遺物 2



古代出土遺物 3

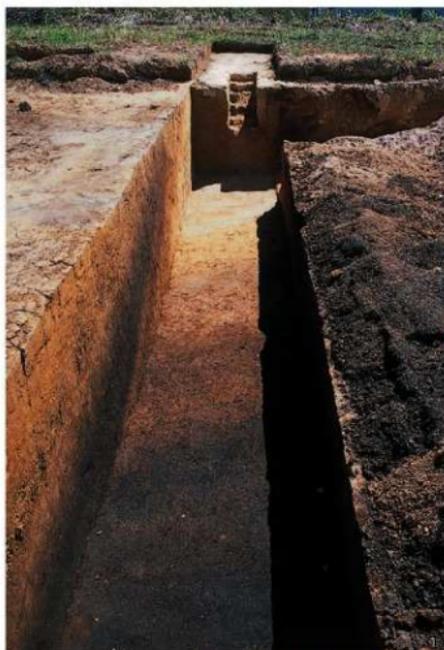


①中之泊遺跡周辺地形

国土画像情報(カラー空中写真)国土交通省 昭和49年撮影

②～④遺物出土状況

⑤調査風景



① T 完掘状況
⑤ 調査風景

④ IX層上面検出状況

② T 完掘状況
⑥ 土層断面

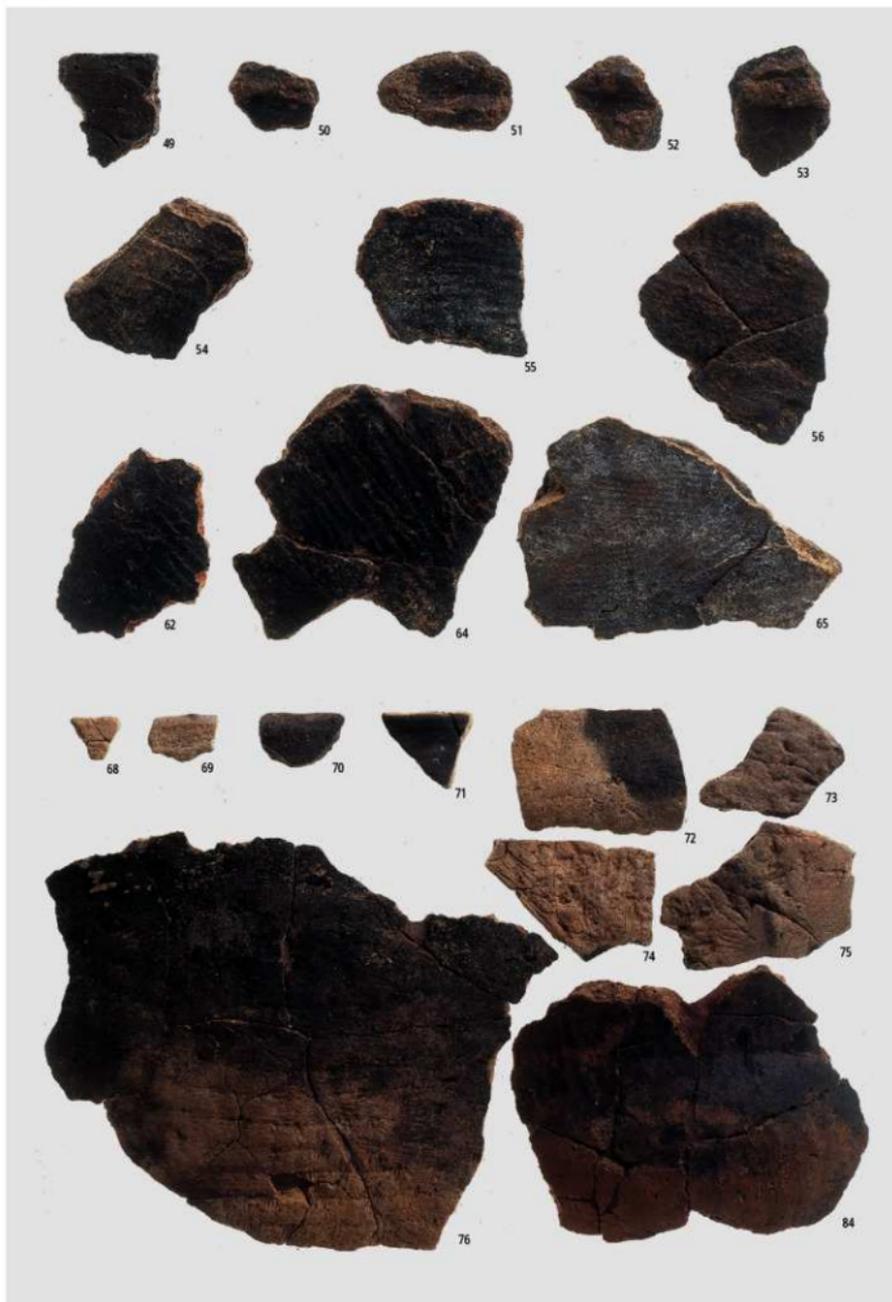
③ T 完掘状況



I類～IV類土器ほか



IV類・V類土器



VI類～IX類土器

あ と が き

唐尾遺跡・高古塚遺跡・菅牟田遺跡・中之迫遺跡の発掘調査は、平成16年度～平成18年度までの3年間、東九州自動車道建設に伴い実施された。

高古塚遺跡の調査では、アカホヤ火山灰層で落とし穴を発見したため、夏場のピーカンの空の下、オレンジ色の中にレモン色を探すのに神経を注いだ。さっき迄は、見えていたのに、「見えない！」在るはずのものが無い！無いはずのものが見えたのか？

また、古代の焼土跡が検出されてからは、建物があるかな？とみえない埋土に格闘した。黄色の検出面に夏の太陽、「見えな～い！」と頭を抱えながらも、絶対あると確信して検出に努めた。出てくるのは汗ばかり！カメラを抱えて、高い位置に登って見たら、くっきりと柱列が見え、夢中でシャッターを切った。「近くで見えねば引いて見よ」であった。

そんな中、調査終了間際に台風17号が襲来した。休日だったこともあり、上陸した割りには、大した事はないと安心していたら、谷を挟む地形のせいか竜巻に襲われ、現場のプレハブはさんざん目に遭い、翌日から消え去った図面や資料を探すため、蒸し暑い中、谷底の藪を山狩りと称して探し回った。まるで、自然や先人達からあざ笑われているかのようであった。

こんな、ドタバタの調査を多くの作業員さんが支えてくれた。思えば、我々調査員は遠い過去の先人が残してくれた物を追いかけ、過去の人々の活動を追求する事に夢中になってしまう。だが、目の前には、自分達よりも先の時間を生き、多くの経験と体験をしてきた数多くの先達がいる。残念ながら今の我々は、彼らのそれには追いつけない。遠い過去の事象ばかりでなく、近き過去の時間にも耳目を傾けて、それらも明日の世界を築くために、未来へ繋いで行く必要があるのでは無いだろうか。

本年度の整理作業、報告書刊行は、失われつつある調査時の記憶を掘り起こしながらの作業が続いた。多くの貴重な情報が遺跡から得られたため、「一つでも多くの情報を記録したい」と努力したが、情報を整理・統合し、十分に活用できたかは、時間的な制約と担当者の力量不足のため、恥ずかしながら疑問に思うところである。

本報告において、実測等の作業を続けながら開発によって消えゆく遺跡の記録保存がこれで良いのかと不安に駆られ疑問に思い続けながらの1年であった。次回からは、より多くの正確な情報を整理・統合して活用し、提供できるようにしていきたい。

今回の発掘調査報告書を発刊するにあたり、多くの汗を流し発掘調査に携わってくださった地元の作業員さん、報告書作成のために努力してくださった整理作業員さんに厚くお礼を申し上げ感謝の言葉といたします。

担当者一同

唐尾班をはじめ、ご協力いただいた多くのみなさんありがとうございました。

鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（127）

唐尾遺跡 高古塚遺跡
菅牟田遺跡 中之迫遺跡

発行日 平成20年3月19日

発行者 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
T E L (0995) 48-5811

印刷所 株式会社あすなろ印刷
〒899-0041 鹿児島市城西2-2-36
T E L (099) 250-7033